

現代では身近なツールとなった AI

AI がもたらす便利さは、もはや「特別なツール」ではなく、「優秀な副操縦士」が常に隣にいてくれるような感覚に変化しています。具体的な例をいくつか挙げると…



1. 情報の要約

長いニュース記事や会議の議事録を、一瞬で 3 行にまとめてくれる。

2. 高精度な翻訳

単なる直訳ではなく、前後の文脈やニュアンス(丁寧語等)を理解した自然な翻訳がリアルタイムで可能。

3. 画像・動画生成

絵が描けなくても、言葉で説明するだけでプロのようなイラストやプレゼン用画像が作れる。

一方で見逃せない「AI の消費電力」

1. AI はどれだけの電気を「暴食」しているの？

便利な生成 AI(ChatGPT など)ですが、その裏側では従来の IT サービスとは桁違いの電力を消費しています。例えば最新の巨大 AI モデルを 1 ヶ月運用する電力は、推計で約 500 万～6,000 万 kWh に達します。

2. 【AI vs 岡谷市】

～弊社の拠点、岡谷市の世帯数: 21,113 世帯(R8/2 現在)と比較すると?～

大規模な AI システムをたった 1 つ動かし続ける電力は、一般家庭の平均消費電力を 250kWh/月として算出すると、岡谷市の全家庭が使う電力の約 **1 倍～11 倍**に相当します!!

つまり、AI を 1 つ運用することは、岡谷市という一つの街の全世帯の生活をまるごと支えるのと同じ(あるいはそれ以上)のエネルギーを注ぎ込んでいることになります。

更に、世界のデータセンター需要: 2026 年には、世界中のデータセンターが消費する電力が日本の年間総発電量(約 1,000TWh)とほぼ同等になる見込みです。

3. 「電力リスク」に備える: AI 時代の企業防衛

AI への依存度が高まる一方で、電力需給の逼迫やコスト増、それに伴うシステムダウンは、企業にとって無視できない経営リスクとなっています。

企業が備えるべき「電力リスク」と対策

1. 電力需給の不安定化への備え

世界の電力需要が急増する中、万が一の停電や電圧低下による設備の損傷は、業務に致命的なダメージを与えます。

△対策: 【火災保険】 不測の電圧低下による電氣的事故被害をカバー。

2. サイバー攻撃と電力の連動

AI インフラはサイバー攻撃の標的になりやすく、踏み台にされることで異常な負荷(電力消費)をかけられるリスクも孕んでいます。

△対策: 【サイバー保険】 不正アクセスによる復旧費用や、事業中断による利益損失を補償。

